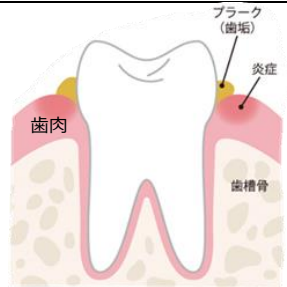
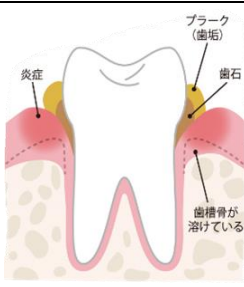
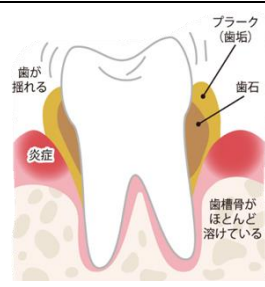


歯周病について

歯周病とは・・・

歯を支える歯肉に炎症が起こり、歯槽骨が溶けてしまう病気で、細菌感染によって引き起こされます。痛みのないまま慢性的に進み、見た目は変わらないまま、歯を抜かなければならないほど重症になることもあります。

歯肉炎	歯周炎 (軽度～中等度)	歯周炎 (重度)
歯肉にのみ炎症がある	歯槽骨が溶け始める	歯槽骨が溶けている
		
歯と歯肉の隙間にたまったプラーク(歯垢)の中で細菌が毒素を産出し、歯肉に腫れや出血をおこします。	歯と歯肉の隙間が深くなり、歯周ポケットを形成します。歯が浮く感じや歯肉がむずむずしたり、歯肉が赤く腫れたりします。	歯がぐらぐら揺れ、歯肉から膿がでたりします。ものが噛みにくく、口臭も強くなります。

歯周病は治る？

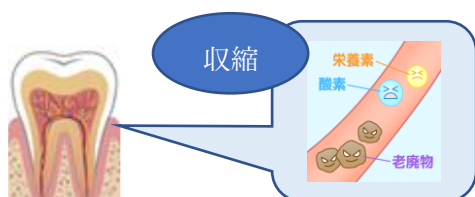
歯肉炎（初期段階）の段階で、歯肉の炎症を改善することが出来れば治る可能性があります。歯槽骨が溶け始めると治療によって改善出来ますが、元の状態に戻すことは難しくなりますので、早期発見・早期治療が重要です。

喫煙と歯周病の関係

タバコの煙や成分は、口の粘膜や歯肉から吸収されます。吸収されたタバコの有害物質は、歯肉の血管を収縮させるため、血流量が減少し、歯周ポケットの中の歯周病原菌が繁殖しやすくなります。また、血行不良により炎症が抑えられ、歯肉の出血や腫れが現れにくいですが、歯周病は進行しています。

ニコチンの血管収縮作用

血液の流れが悪くなり、栄養や酸素の欠乏、老廃物の停滞により歯肉組織を破壊する。



歯肉の線維化

喫煙により歯肉の血管が細くなっており、炎症が抑えられるためトラブルに気づきにくい。



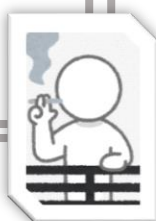
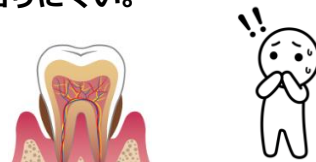
白血球機能の抑制

喫煙により白血球の防御能が低下し、治りにくく再発しやすい。



歯肉収縮機能の低下

歯周組織の修復機能が低下しているため治療しても治りにくい。



糖尿病と歯周病はお互いに影響を与える！？

歯周病による炎症がインスリンの働きを妨げ、糖尿病による高血糖が免疫力を低下し、歯肉の炎症をおこしやすくなる。どちらかを治療するともう一方の改善にも繋がります。

